

DACKS にケープサイズ 2 隻発注

■クミアイ・ナビゲーション、29 年竣工

くみあい船舶グループのシンガポール船主クミアイ・ナビゲーションは1月30日、川崎重工業にケープサイズ・バルカー 2 隻を発注した。川崎重工の中国合弁造船所である大連中遠海運川崎船舶工程 (DAKKS) で建造する。重油燃料船で、2029年に引き渡しを受ける予定。船隊更新プログラムの一環で、2隻のうち1隻は7年間の用船契約を確保している。

新造発注したのは21万重量トンのニューキャッスルマックス型で、クミアイによる大型バルカーの新造は、発注ベースで8年ぶり、竣工ベースで9年ぶりとなる。

クミアイは船価高の中、船隊規模を維持するための最小限の新造発注にとどめている。黒柳智丸マネージングダイレクターは本紙取材で、「船主として環境対策は積極的に行っている。新燃料についてはどの燃料が最適か長い間、模索が続いているが、明確な結論が出ておらず、一船主として方向性を決めるのは困難。コストに見合う運賃を負担するというコンセンサスが荷主とオペレーターの間で形成されないことが問題だと思っている」との考えを示す。そのうえで今回の発注について、「本船

が処分を迎える頃には私はおそらくいないので、経営者として責任を取ることができない。今回は当社のフリート構成を考慮しつつ、自覚を持ってもらいたいという意味で、将来を担う若手の意見を尊重し発注した」と説明。「船価は高止まりだが、造船所も頑張ってくれているので、長年のパートナーとして知恵を絞って継続して発注したいと考えている」と述べた。

クミアイの既存船のうちケープサイズは4隻で、“CAPE LILY” (2012年建造、今治造船・西条)、“KN AMETHYST” (2017年建造、南通中遠海運川崎船舶工程<NACKS>)、“KN ARCADIA” (2017年建造、NACKS)、“AZUL HARMONY” (2020年建造、NACKS)。

クミアイは1995年にくみあい船

舶の100%出資でシンガポールに設立され、昨年4月に創立30周年を迎えた。発足当初は、くみあい船舶からタンカー、バルカー、ガス船を計6隻買船して船主業を開始。日本の用船者から協力を得るとともに、発足数年後から海外用船者との取引を拡大してきた。発注残を含む保有船は、今回の2隻で25隻となった。

保有する船種は、タンカー、バルカー、ガス船の3本柱とし、現在はバルカーとLPG船を保有している。LPG船は大型のVLGCの発注を進めてきたことで、船隊全体に占める割合が高まっている。バルカーは、昨年、既存船のリプレースのため、ハンディマックス (ウルトラマックス型) を2028年納期でNACKSに1隻発注している。